文献センター通信

第18号
2012年8月25日
一部100円

主な内容

2013年カレンダー発売決定……1
イベント「大杉栄と仲間たち」……1
甦る「社会活動家」・金子文子……2
会員からの近況報告……3
フランスの年金改革反対闘争……4
前田幸長氏寄贈リスト……8

二〇一三年版カレンダー九月発売決定

毎年ご好評をいただき、来年版で7年目となるアナキズムカレンダー。来年が関東大震災直後に虐殺された大杉栄、伊藤野枝、橘宗一の90周年にあたることから、3人をテーマとして制作。これまでの人物紹介と図版のみで構成するのではなく、大杉栄や伊藤野枝の様々な面を一つのテーマとして、それぞれの分野の専門家の方に、大杉や野枝について、書き下ろしてもらいました。また、宗一少年については、墓碑を保存していく活動について、執筆いただきました。

【2013年版テーマと執筆者】▼1月「大杉逮捕と日仏連帯行動」（鎌田慧）▼2月「青鞜の伊藤野枝」（森まゆみ）▼3月「大杉栄と民衆芸術」（足立元）▼4月「野枝と女性解放―現実と幻想の間」（グレープフルーツ）▼5月「大杉榮と自由連合論」（飛矢崎雅也）▼6月「野枝育ての親代準介」（矢野寛治）※左下図版▼7月「大杉栄の「世界性」について」（高祖岩三郎）▼8月「大杉栄とファーブル昆虫記」（小原秀雄）▼9月「保存すること保存しつづけること」（黒澤和子）▼10月「エスペランチストとしての大杉栄」（藤巻謙一）▼11月「フランスの大杉栄」（片倉悠輔）▼12月「貫いた「生の闘争」」（大杉豊）

【仕様】LPジャケットサイズ、28ページ、頒価一五〇〇円（会員頒価一〇〇〇円）、送料1部80円

【取扱店舗】IRREGULAR RHYTHM ASYLUM、模索舎（新宿）、りぶるりべろ（神保町）、三月書房（京都）ほか

【購入方法】①郵便振替（A文献センター口座）に部数、氏名住所をご記入の上、送料込の値段をご送金②ウェブサイト販売ページで購入 http://cira-japana.net/

刊行記念講演会

カレンダー刊行記念講演として、11月17日（土）に「野枝育ての親　代準介」をご執筆いただいた矢野寛治さん他をお招きして講演会を開催する予定です。詳細は次号。なお、当日はカレンダーの販売や矢野さんの新著「伊藤野枝と代準介」（仮）も販売予定です。

「大杉栄と仲間たち―『近代思想』創刊一〇〇年記念」開催

アナキズム文献センターも主催団体となっているイベント「大杉栄と仲間たち―『近代思想』創刊一〇〇年記念」が10月13日（土）に開催されます。

▼日時：2012年10月13日（土）13時開場、13時半開始
▼場所：明治大学和泉キャンパス

（京王線明大前駅より徒歩3分）
▼プログラム＝講演…村田裕和、足立元、クリスティーヌ・レヴィ
リレートーク…田中ひかる、飛矢崎雅也、山中千春、手塚登士雄、山泉進、竹内栄美子ほか（予定）
▼入場無料、スライドショーによる関連映像の上映あり、アナキズムカレンダーほか関連書籍ほか物販コーナーあり
▼主催団体…日本社会文学会（関東甲信越ブロック）、大杉栄全集編集委員会（ぱる出版）、アナキズム文献センター、『アナキズム』誌編集委員会、初期社会主義研究会他
▼問い合わせ…イレギュラー・リズム・アサイラム
03―3352―6916（13～20時※月水除く）
メール＝a.osugi100@gmail.com

文子忌に参加

7月22日、やまなし金子文子研究会による文子忌に参加してきました。山梨市牧丘町に在る歌碑の前には県内外から40名近くが集合。あいにく富士山は雲に隠れ見えなかったが、葡萄畑にはまだ青く小さいがしっかりとした実がついていました。参列者の挨拶、黙祷、顕花の後、円光寺で偲ぶ集いが開かれました。研究者の方が多く、あちこちで「先生」と呼び合っており私にはどうにも場違いのよう。参加者の多くが、やっと？10月5日に開館する朴烈・金子文子記念館の開館に合わせて韓国を訪問するようだ（後日開館が9日に延期になったとの事）。（山田崇正）

甦る「社会活動家」・金子文子

鵜川辰夫

アナキスト・金子文子の肖像として一般に流布している写真は、実は同姓同名のまったく別人のもの……。彼女の存在を知ったときから、ぼんやりと抱いていた疑問が解け、決定的ともいえる事実に基づいて、拙いブログ上で持論を公開したのは2年余り前のこと。

調べてみれば、ごく初歩的な新聞社の校正ミスによって、30年以上もの間誤ったイメージが広まってしまっていた。文子のファンを自認するひとりとして見過ごすことはできない。とはいえ広大なネット空間の、ちっぽけな個人的ブログの言説など、だれが読んでくれるのかまったく見当もつかない。そこで、あちこちの出版社に事の次第を認めて送り、見解を求めたのだけれど、真っ先に反応して、訂正記事を掲載してくれたのは、アナキズム文献センターだけだった（！）。女性史研究者として名高いS女史からは、電話で照会があり、対処を約してくれたもののその後の進展はなし。

ところが、その過程で交流することになった〈やまなし金子文子研究会〉の佐藤代表から、この6月中旬に、読売新聞全国版の記事として金子文子を取り上げてくれることになったとの連絡をいただいた。おそらく佐藤代表による働きかけが功を奏したのだろう。記事によれば、写真の誤りを認めて改訂本の発行を決めた出版社もあるという。当該記事は、ブログにも転載してあるので、興味のある方はご覧いただければと思う。
（http://sinkousya.exblog.jp/18157081/）

あの関東大震災からはこの9月1日で89年の歳月を刻む。死者10万人を超える大災害は、未曽有の天災というだけでなく、その後の歴史に影響を及ぼす様々な事件をも惹起させた。デマに踊り正気を失った民衆や官憲らによる、大量の罪なき朝鮮人虐殺事件。また、甘粕事件・亀戸事件・虎ノ門事件など。

一方、朝鮮人虐殺事件に向けられた内外からの批判をかわすため、政府によってフレームアップされたのが「朴烈・金子文子事件」だった。先に挙げた事件に比べ、幸徳事件に次ぐ第二の大逆事件とされる、朴と文子の関わった出来事は、そもそも事件と呼ぶことさえ憚られるようなたわいないもので、よほど関心をもって二人を追いかけた人間以外、今では知る人も数少ないのではないか。かくいう私も、この事件の経緯と〝思想家〟としての金子文子の真実を知り得たのは、それほど遠い日のことではない。これを契機に「社会活動家」としての文子が再発見されることを、切に願うばかり。

富士宮交流会のお知らせ

昨年はお休みした交流会ですが、本年は開催します。多くの方のご参加をお待ちしております。初めてという方も大歓迎です。お気軽にどうぞ。

▼日時＝9月29日（土）14時～懇親会18時～。30日（日）AM書庫作業（掃除・整理等）、昼食後解散▼会場＝ふもとの家（静岡県富士宮市杉田251▼申し込み・問い合わせ先＝info@cira-japana.net

会員からの近況報告

徳永理彩

6月から7月にかけて、ニュージーランドのウェリントンにある「128ラディカル・ソーシャル・センター」に行ってきました。ライブラリーで幸徳さんのジン（冊子）に会い、文献センターカレンダーを寄贈したらさっそく使ってくれているようです。

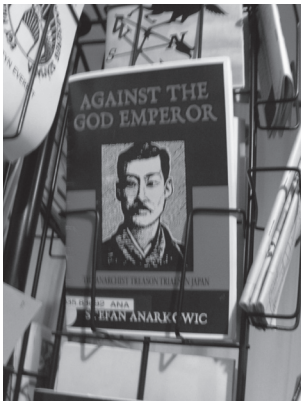
とても居心地のよい場所でした。地元の活動家の住人たちのほかに、ニュージーランドとオーストラリアのオーガニック農園で住み込みで働いてきたドイツ人や自転車や機械好きのアメリカ人が滞在していました。ライブラリーのほかにキッチン、集会室、自転車修理工場、畑、パソコンコーナー、ジェンダーや子連れに配慮した宿泊部屋がありました。

もともとレバノン移民の集会所だった二階建ての大きな家屋が高速道路建設計画による立ち退き要請で使われなくなっていたところ、持ち主と交渉して固定資産税分の安価な負担で10年間使われてきました。ウェリントンの中心部から歩いて15分ほどの好立地です。7月には発足期から現在のメンバーが集まって10周年記念パーティがありました。

10年の間には、二〇〇七年に起きたニュージーランド各地の先住民運動とアナキストを「テロリスト」容疑の標的にした大弾圧で「128」もガサ入れに遭いました。ニュージーランドは非核国家を掲げる平和な土地柄という印象の反面、ラディカルな活動家は刑務所廃止を掲げています。

ニュージーランドはオークランドやドゥニーデンにもインフォショップがあって、先住民の権利、自転車文化、動物の権利、学生の権利、性的多様性への権利、アジア系のコレクティブ、移民・難民の権利など、いろいろなテーマに取り組む活動家たちと会うことができました。

「128ラディカル・ソーシャルセンタ」を訪問したい方は直接128abelsmith@gmail.com まで。



（上）ライブラリーには幸徳秋水のジン（冊子）も
（下）ソーシャルセンターの入り口には「すべての刑務所を焼き尽くせ。コミュニティを作ろう」のメッセージ

フランス「年金改革」反対闘争についての覚え書き

吉田太郎

２０１０年、フランスではサルコジ政権が、年金制度の新自由主義的な改革を断行しつつあり、それに対する大規模な抗議行動が全国的に頻発していた。当時、フランスの地方都市に留学していた私は、日本の状況では考えられない規模の街頭行動に、偶然にも居合わせることができた。すでに少しばかり時間が経過しているが、当時の経験のささやかな報告をここに書き留めておきたい。

多くの人が指摘するように、この闘争で特筆するべきは、街頭へと集団的に登場した高校生たちである。ある日、デモの集合地点でぼんやりと出発を待っていると、歓声とともに駆けてくる高校生の集団が登場する。みんな、どうしようもなく楽しそうである。なにせ、学校をサボって、しかもデモに来ているんだから、楽しくて仕方がないに決まっている。その頃、フランス全土で３００以上の高校がストライキなどの闘争状態に入っていた。デモで目にした「経済を封鎖せよ、言葉を解放せよ（ECONOMIE BLOQUEE/PAROLE LIBEREE）」というプラカードには、学校という日常的桎梏からの解放感と、思考と行動にかけられている真摯さとが、忘れがたく刻まれていた。

高校生たちの登場はまったく突発的であった。それまではもっぱら労組主導であった運動は、彼らが流れ込んでいくことで大衆的な高揚を急激に獲得していった。だが、彼らはなぜ突如として闘争に参入したのか。年金改革は果たして彼らに関係があるのだろうか。この改革は、定年退職の法定年齢を引き上げ、それによって財政支出の削減を狙ったものであった。そうであるかぎり、高校生には少なくとも直接の関係はないようにも見える。若年層の雇用不安があるなかで、定年の延長は雇用を圧迫するという指摘もあるが、そうした連関は、ともすれば容易に埋没させられてしまう。実際、同じく若年層の雇用不安を抱える日本であっても、もし年金に攻撃がかけられるならば、新自由主義者のみならず、「世代間対立」なる分断線を引こうとする者たちの熱烈な支持を受けるように思われてならない。

決起した高校生たちが年金改革という状況をみずからに結びつけえた契機があるとすれば、それはまさに運動の過程それ自体だったのではないだろうか。運動のなかで交わされる議論と、街頭での行動そのものが、闘争課題を自分たちのものとして引き付け、また自分たちもまた当事者であることを社会に対して突きつけたのである。日常的に分断の煽られるこの日本社会でなおも希望を見出そうとするならば、私たちはここにこそ学びうるのだと思う。

（上）プラカード「経済を封鎖せよ、言葉を解放せよ」
（中）デモをするCNTメンバー　（右）高校生のデモ隊

八街だより

文献センターの資料整理の状況は、単行本に関しては8月初めに、これまで分割して作成された目録データの一本化がなされました。富士宮の書庫に収まりきらずにあちこち分散して保管されていた資料、新しく受入れた資料を八街の書庫に集めて、ゲゼル文庫・長谷川文庫・欧分資料といったようにブロック毎に目録作業を進めてきましたが、それがようやく6～7月に終了して、各データの統合となりました。

現状のデータは、作成時期や担当者による不統一が若干あり、重複や不完全なデータも混在していますが、その修正はセンターの情報システムの検討に合わせて、いずれ機会をみて手を着けたいと考えています。

ようやく一区切りのついた八街の近況を前号に続けて報告します。

3月3～4日　1月に欧文資料のデータ入力を終え、2月に登録作業を完了したので、八街での目録作業は一区切りついたのですが、倉庫内にはまだダンボール箱に入ったままの横倉さん寄贈の資料などが積まれており、本棚のあちこちには仮置きしたままの単行本が残されています。それらをとりまとめて整理を開始しました。

話は変わりますが、一月は夜寒かったのですが、2月も防寒対策にかかわらず震えました。来年は2月をお休みにしてもいいかも知れません（三名参加）。

3月16～18日（富士宮）　八街での欧文資料の整理が進んだこともあって、今度は富士宮の欧文単行本の整理が課題として浮上。そこで昨年12月に引き続いて本をアルファベット順に区分し、次いで古い（1973年）目録との照合をした後に、未登録分のデータ入力という段取りを立てました。欧文単行本をABC順に区分け配列する一段階目の作業にまず取り組みました。あとは例によってミニコミ資料の片づけと書庫内の清掃です（参加一名）。

4月7～8日　前月に引き続きダンボールを開けて単行本とその他資料に分け、単行本はデータ入力、その他資料は分類してファイルにとりまとめる作業です。八街には初めてのTさんには雑誌の整理とリスト作りを手伝ってもらいました（参加三名）。

＊4月9日より、倉庫（書庫）を除いた母屋と納屋を平日昼間、フリースペースとして使ってもらうことにしました。八街の土地取得で世話になった人の縁によりますが、昨年春から月に一回ですが、母屋を使ってもらっていました。周囲の不審視（そのように見られたとの話が周り回って耳に達していました）がいくらか和らぐ以上に、常駐者の存在は倉庫の管理面でも安心材料です。

4月27～29日（富士宮）　ABC順に別けられた欧文単行本を古い欧文目録と照合し、現物を確認できたデータはそのまま生かし、未登録の分はデータ入力する。合わせて登録作業を完了させました。富士宮のセンターも初めてというTさんには八街に引き続いて雑誌の整理とリスト作りを分担してもらう。八街・富士宮の各雑誌リストを合わせると、センター収蔵の雑誌が一覧できることになります。

頃は春、山菜の時期でもあり、早朝に起き出して山に入ったYさんがどっさりタラの芽などを採集してきました。夕食はタラや山菜のテンプラを久々に満喫しました。龍さん夫妻もお元気でしたヨ（参加四名）。

5月26日　2トン車を借りて、東京より八街に資料を運ぶ。以前から話のあった故河西善治の蔵書の寄贈を受け、荷造りの済んだおよそ半分に当たる資料と、友人宅で預かった資料を順次積み込んで八街に。河西蔵書の残りは後日となるが、量が多いのでとりあえず倉庫の一角で保管し、整理・目録づくりは後日となる。この日はトンボ帰り（参加二名）。

6月2～3日　東京で保管されていたビジュアル、オーディオ資料を八街に運ぶ。作業の方は4月につづいて倉庫内に残った単行本のデータ入力、これまで手つかずで積まれたままとなっていた文庫、新書の山から不要の本を除いてデータ入力へ。合わせて4月に入力した分の登録作業を進める（参加三名）。

7月7～8日　5月に新規に受け入れた資料を別にすると、未整理

状態で八街に集められた資料はこの日の登録作業によってすべて整理・登録されたことになります。

そこで、これまでいくつかに分れて作成された単行本のデータを一本化することにした。残るのは、新聞・雑誌・ミニコミ・チラシ類であるが、新聞・雑誌は東京で整理が進められて、まとまった分から八街に運び、ミニコミ・チラシ類は富士宮が主で、これは徐々に進めていくことになります。

8月4～5日　河西蔵書を除いた新着資料の整理に着手。すでにセンターに収蔵されている重複本を除いてデータを入力して登録となりますが、寄贈目録には重複分も記載することになるのでその手順を検討しました。幸い、これまでの目録データの一本化が完了したので、円滑に進むことと思われます。

今回は余禄として、フリースペースのスタッフが作っている畑のエダマメ、ピーマン、ニンジン、ツルムラサキ、トウモロコシを美味しくいただきました。トマトがまだ実っていないのが残念といえば心残りともなりました(参加二名)。

議事録

【5月運営委員会】5月2日（火）

◇2013年カレンダーについて　菅沼清美さんから「大杉と仲間たち展」に出展された撮影写真を借りた。刊行記念イベントは10月に執筆者を呼ぶ。スタッフのデザイン等の費用を経費である程度出せるようにする

◇図書館構想について　ダブり本を新宿事務所に持ってきて閲覧できるようにしてはどうか。テーマを決めて関連する資料を新宿事務所で公開（センター所蔵ビラ・ポスター展を開催など）

【6月運営委員会】6月5日（火）

◇2013年カレンダーについて　一般流通について検討、発売予告開始にあたり専用販売ページを作成

◇次回通信について　会員が増えてきたこともあり（約114名、協力者除く）、年4回発行を維持（8、10、12月発行）

◇「東京分室」構想　本格的に「東京分室」を立ち上げる、場所は新宿事務所。本棚は増設するなど、ダブり本を中心とした主要アナキズム本（図書館で容易に借りられないもの。機関紙・誌、パンフ類、私家本、絶版本など。原本かコピー版か）を置く

【7月運営委員会】7月3日（火）

◇2013年カレンダーについて　今月中に図版選定、最後のページは執筆者のプロフィールのほか3人の英文プロフィール、文献リスト、奥付、会員募集

◇集会「近代思想100年と大杉栄」について　10月13日（土）に明大で開催されるイベントに文献センターも主催団体の一つとして参加決定

【8月運営委員会】8月7日（火）

◇2013年カレンダーについて　日程は9月16日の墓前祭に間に合わせる、流通については地方小に無理ない範囲で問い合わせ、主要書店に営業（ジュンク堂、紀伊國屋、東京堂等）

◇次回通信について　8月末発行、次回発送時に未入金者には別途お知らせ封入

◇東京分室について　本棚設置完了。ダブり本を八街から事務所に送ってもらう。蔵書の内容は要検討だが、まずはダブり本＋パンフ類、機関紙コピー、定期刊行物から。上記の目録作成

◇ポスター展について　以前話に出た「センター所蔵ポスター展」は年内準備、来年開催へ

◇ウェブサイトについて　カレンダー予約ページに合わせてリニューアル、今後は宣伝の一環として文献リストは会員制にはしない方向

◇パンフレット発行について「アナキズム誌」と共同で冊子制作の話が出ているが、センターとしてもぜひやりたい。

アナキズム文献センター通信第18号
発行／2012年8月25日
発行所／アナキズム文献センター
編集／運営委員会
連絡先／東京都新宿区新宿1－30－12－302
郵便振替口座／00850－3－30010
口座名　A文献センター
Eメール／info@cira-japana.net
定価／一部100円

Lecoin, Louis	Le Cours D’ une Vie			Paris	1965
Lewin, Roland	Erich M sam 1878-1934			Paris	1968
Lutteur, Un Grand	Lois Bertoni (1872-1947)			Gen 騅 e	
Masini,Pier Carlo	Storia Degli Anarchici Italiani	Da Bakunin a Malatesta (1862-1892)		Milano	1969
Oliván, Gregorio	Romancero de la Libertad			Paris	1947
Orwell, George	Homage to Catalonia				1962
Pelloutier, Fernand	Histoire des Bourses do Travait			New York	1971
Pouget, / mile	Le Syndicat			Nancy	
Pradas, Garcia	La Revoluciô y el Estado	Tactica Marxista		Paris	
Privat, Edmond	Karlo			日本エスペラント国書刊行会	19580517
Read, Herbert	Existentialism Marxism & Anarchism			Freedom Press	1950
Read, Herbert / etc	Filosofia der Anarquismo	Textos de Herbert Read, Max Nettlau, Rodolf Rocker, Benajamin R. Tucker		Barcelona	1978
Rocker, Rudolf	Pioneers of American Freedom				1949
Rocker, Rudolph	The Six			Los Angeles	1938
-	La Fin Douloureuse de Sebastien Faure	Apôre Libertaire de la Paix		Paris	1957
-	Anarchy No.1,6-8,11				
-	ANTAUEN RENKONTE AL LA DEFIO			Anglujo	
-	Defense de L’ homme 1962 No.168				
-	Der Freie Gedanke No.21,22				1950-1951
-	Japanaj Martiroj de Anarkisma Movado			Anarkista Federacio Japana	1957
-	La Brochure Mensuelle No.24,27,103,104,172				1924-1937
-	Le Libertaire 196 ～ 247 号 (199、205、206、214、215 欠)			リベルテール舎	
-	Le Mouvement Social 1973 No.83			Paris	1973
-	Le Resistant a la Guerre 1961 No.92,93				1961
-	Les Nouvelles 1 号			「アルゴ」グループ	19720401
-	Liberecana Ligilo No.42,45-47				1982-1983
-	Noir et Rouge 12			Paris	
-	Noir et Rouge 15-16			Paris	1960
-	Publication de <<La Revolte>> et <<Temps Nouveaux>> No.12,27,30				1922-1924
-	The Echo 1 ～ 4 号				
-	The Echo New 1 号				19690415
-	The Echo New 2 号				19710220
-	The War Resister No.75,80,83-85,91			London	1957-1961
-	The War Resister No.86,87,94	Special Eldono		London	1960-1962
-	Tierra y Libertad Nov. No.447,455				1983-1985
-	Volonta 1972 No.5				
-	War Resistance Militrezisto 1965 No.3-5				1965-1966

前田幸長氏寄贈リスト（2）

著者名	タイトル名	副タイトル	共著者	発行所 , 場所	発行年月日
-	現代詩神戸　171 号				19950307
-	神戸共同文庫・資料　1 袋				
-	黒色青年　黒色青年連盟機関紙	大正 15 年 4 月創刊号より昭和 6 年 2 月終刊号まで完全復刻	古川時雄／宮崎晃（解説）		19750916
-	思想 1962 年 12 月号			岩波書店	19621205
-	書簡・通信関係　1 袋				
-	書簡類 1 箱				
-	天皇制破壊への渦動　再版・増補	1・2 皇居発煙筒事件訴訟記録		黒色戦線社	197709
-	名古屋平民文庫・資料　1 袋				
-	日本アナキストクラブ機関紙 全 67 号	無政府主義運動・無政府新聞・アナキストクラブ		黒色戦線社	19910815
-	萩晋インフォメーション　1933 年 2 月号				
-	ビラ・チラシその他 1 袋				
-	ひろば / ヒロバ　2 ～ 10、13 号			ひろばの会	
-	文書資料 1 箱				
-	平民新聞　大杉栄・荒畑寒村編集 第 1 号～第 6 号	1982 年・復刻	森長英三郎（解）	黒色戦線社	198203
-	無政府共同文庫・資料　1 袋				
-	無政府主義者連盟結成準備会通信 1 号			無政府主義者連盟東海地方準備会	19750601
-	無政府主義者連盟結成準備会通信 2 号			無政府主義者連盟東海地方準備会	19760120
-	リベルテ　12 号			アナキスト連盟 (大阪)	195406
-	リベルテ　16 号			アナキスト連盟 (大阪)	195501
-	リベルテール (不揃い 53 冊)				
-	労働運動　1 ～ 5 号			阪神労働者懇談会	
-	労働運動　第 1 次より第 4 次完全復刻	大杉栄・主幹　無政府主義新聞		黒色戦線社	197306
-	労働者諸君に訴う	政治と資本家はゴロツキである。		日本アナキスト連盟	19500601
-	労働と解放 1 ～ 7 号			労働と解放社	
-	論争　4 号			論争社	19600310
Armand, E.	Sa Vie Sa Pensée Son Œuvre			Paris	1964
Berthelot, Paul	La Evangelio de la Horo	時の福音 (平民の鐘)		Kiot(yamaga)	1953
Bing, Harold F.	La Internacia Rlolo de la Pacmovado			Anglujo	1965
Boulillet, Suzanne	A Manual of Peace			Paris	
Cardoso, E.	O Amanhã Não Existe			Rio de Janeiro	1957
ノ lecteurs, Aux	Le Mensonge Politique				
Emiliani, Vittorio	Gli Anarchici			Milano	1973
Enckell, Marianne	La Fédération Jurassienne			Lausanne	1971
Erosenko, V.	Rakontoj de Velkinta Folio			日本エスペラント書協同組合（大阪）	19530917
Grave, Jean	Quarante ans de Propagande Anarchiste			France	1973
Herscovici, Leo H.	Galleria di Ritratti	Eterni amici dell’ uomo		Trino	1971
Kropotkin, Petro	Al La Junuloj kaj Biografio			Paris	1938